

- **事業年度**
毎年4月1日～翌年3月31日
- **定時株主総会**
毎年6月
- **基準日**
定時株主総会・期末配当：毎年3月31日
中間配当：毎年9月30日
- **公告方法**
電子公告(www.nissanchem.co.jp)
但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- **上場金融商品取引所**
株式会社東京証券取引所

- **株主名簿管理人**
三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
(〒100-8233)
- **特別口座の口座管理機関**
三井住友信託銀行株式会社
- **各種お問合せ先、郵便物送付先**
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
(〒168-0063)
電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の
本店および全国各支店で行っております。
- **1単元の株式の数**
100株

●住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座に記録されました株主様は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●未払配当金の支払いについて

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

但し、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。

IR情報はホームページからもご覧になれます。

<http://www.nissanchem.co.jp>



日産化学工業

検索



株主・投資家の皆様へ Business Report

第144期 中間報告書

2013年4月1日から2013年9月30日まで



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

当第2四半期連結累計期間における国内景気は、政府の経済対策および金融政策による公共投資の増加、雇用環境の改善を背景とする個人消費の持ち直し、また、円安の定着により企業収益が好転したことから、緩やかな回復傾向となりました。

このような状況のもと、化学品部門は、原料燃料価格の上昇を輸出収支の改善で補い増収となりました。機能性材料部門は、ディスプレイ材料ではスマートフォンおよびタブレットパソコン向けが伸長し、半導体材料では半導体の微細化に伴い多層材料の販

売が拡大しました。農業化学品部門は、国内では、新規水稲用除草剤アルテア、ラウンドアップ(非選択性茎葉処理除草剤)、海外では、タルガ(畑作用除草剤)が好調に推移しました。医薬品部門は、リバロ(高コレステロール血症治療薬)の順調な国内出荷に加え、海外向けも増加しました。

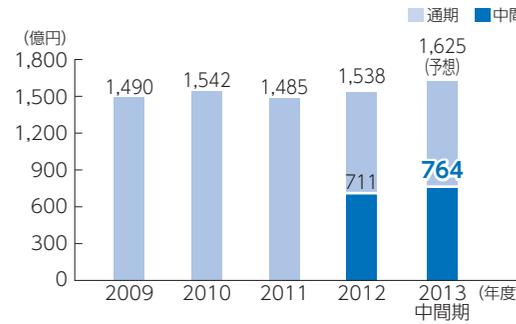
この結果、当期の業績は増収増益となりました。なお、中間配当金につきましては、1株当たり14円(前期中間配当金に比べ2円増配)とさせていただきます。

今年度の業績見通しにつきましては、本年5月の公表値を、足元の需要予測をもとに上方修正いたしました。来年4月から実施される消費増税の影響、海外経済の動向など予断を許さない情勢が続くものと想定しております。当社グループは、いかなる事業環境におきましても、本年4月に始動した3か年の中期経営計画 Vista2015 StageII に基づく諸施策を着実に実行することで、持続的成長、企業価値のさらなる向上を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

取締役社長 **木下 小次郎**

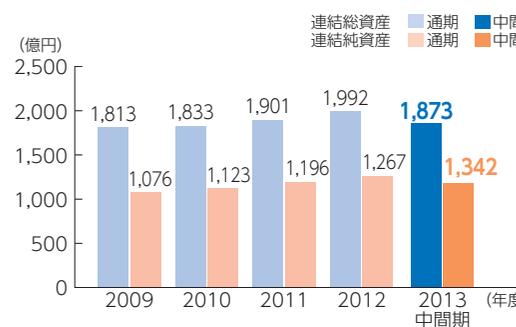
1 連結売上高



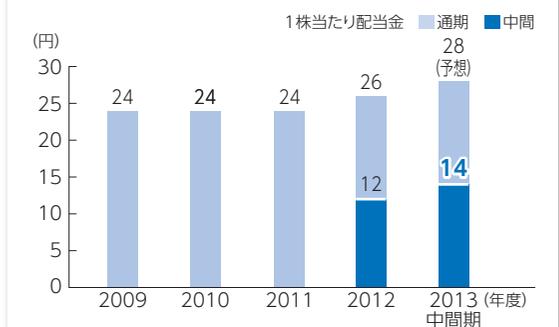
2 連結経常利益/連結中間(当期)純利益



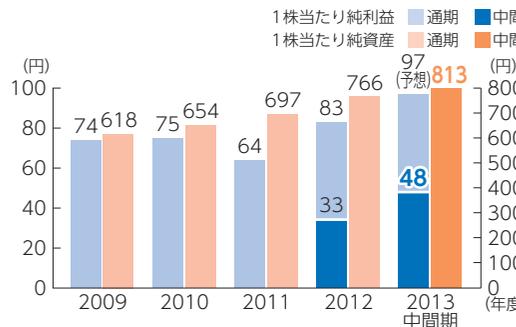
3 連結総資産/連結純資産



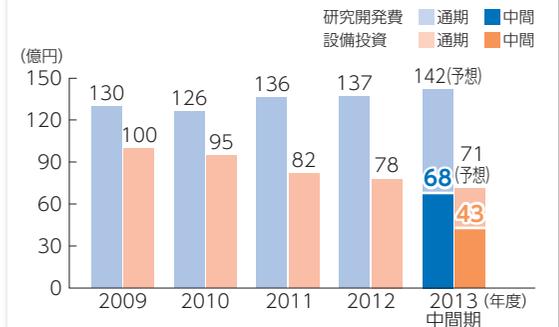
4 1株当たり配当金



5 1株当たり純利益/1株当たり純資産



6 研究開発費/設備投資



セグメント別概況



1 富山工場 高純度液安プラント



3 ラウンドアップマックスロードALドラッグストア向けフロアディスプレイ仕器

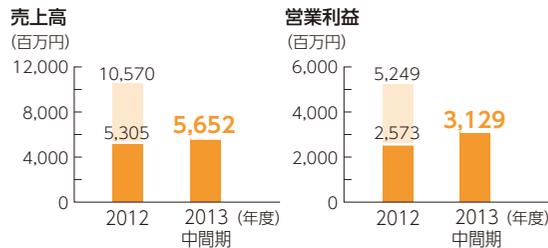


6 日産緑化 アンテナショップ「Green²」

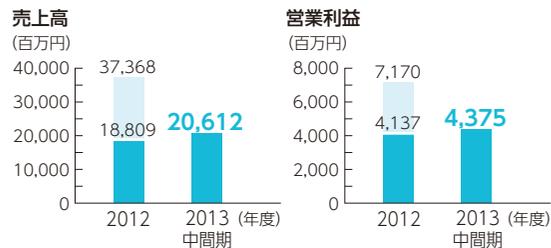
1 化学品部門



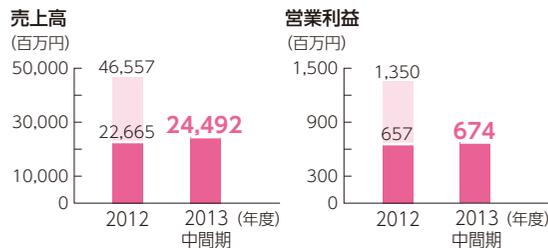
4 医薬品部門



2 機能性材料部門



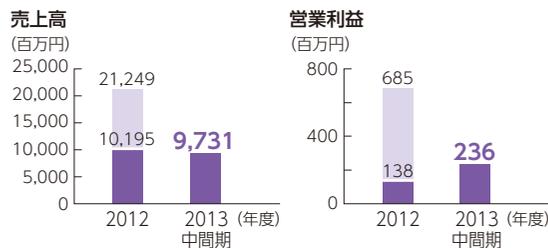
5 卸売部門



3 農業化学品部門



6 その他の部門



1 化学品部門

基礎化学品では、原燃料価格は上昇しましたが、国内外の需要の回復によりメラミン(合板用接着剤原料等)の販売が増加し、「アドブルー」(高品位尿素水)も順調に推移しました。ファインケミカルでは、輸出環境の改善を受けて、「テピック」(封止材用等特殊エポキシ)の売上高が拡大しました。この結果、当部門の売上高は185億55百万円(前年同期比6億59百万円増)、営業利益は8億24百万円(同23百万円増)となりました。

4 医薬品部門

「リバロ」(高コレステロール血症治療薬)は、国内で順調にシェアが拡大したことに加え、海外向けも堅調に推移したことから、原薬の販売が増加しました。一方、開発中の新薬に関するライセンス一時金収入はありませんでした。この結果、当部門の売上高は56億52百万円(前年同期比3億47百万円増)、営業利益は31億29百万円(同5億55百万円増)となりました。

2 機能性材料部門

ディスプレイ材料では、「サンエパー」(液晶表示用材料ポリイミド)のスマートフォンおよびタブレットPC向けが好調を持続しました。また、半導体材料では、半導体の微細化に伴い多層材料が伸長し、BARC(半導体用反射防止コーティング材)の売上高の減少を補いました。「スノーテックス」(電子材料用研磨剤、各種表面処理剤等)は、電子材料用研磨剤向けの販売が前年を下回りました。この結果、当部門の売上高は、206億12百万円(前年同期比18億3百万円増)、営業利益は43億75百万円(同2億37百万円増)となりました。

5 卸売部門

農業化学品製品の輸出および医薬中間体関連製品が伸長し、当部門の売上高は244億92百万円(前年同期比18億27百万円増)、営業利益は6億74百万円(同17百万円増)となりました。

連結売上高
76,401百万円
2013年度
(中間期)

3 農業化学品部門

国内に関しましては、「アルテア」ならびに「シリウス」(水稲用除草剤)、一般家庭用を含む「ラウンドアップ」(非選択性茎葉処理除草剤)の販売が増加しました。輸出につきましては、「タルガ」(畑作用除草剤)の出荷が伸長しました。この結果、当部門の売上高は160億2百万円(前年同期比26億29百万円増)、営業利益は23億73百万円(同10億23百万円増)となりました。

6 その他の部門

当部門の売上高は97億31百万円(前年同期比4億64百万円減)、営業利益は2億36百万円(同98百万円増)となりました。

「テピック」シリーズ 新グレードの展開強化

当社は化学品事業部において、高機能エポキシ化合物「テピック」シリーズを市場展開しております。

「テピック」は、当社が製造する原料であるイソシアヌール酸から誘導されるエポキシ化合物です。その硬化物は透明性、耐熱性、耐光性に優れていることから、一般グレード「テピック-G」は粉体塗料、電子材料グレード「テピック-S」はLED、プリント基板などで使用されています。

また、お客様からの多様な要請に対応して、低溶解グレード「テピック-HP」をはじめ、使用場面でのハンドリングが容易となる液状化グレード「テピック-PAS」、透明性および耐久性をさらに高めた「テ

ピック-VL」、溶解性を大幅に改良した「テピック-L」を開発しました。

今後、新グレードの研究開発を強化することでラインアップを拡充し、「テピック」シリーズの市場拡大を図ってまいります。



「テピック-VL」の構造式



「テピック」シリーズ展示会の様子

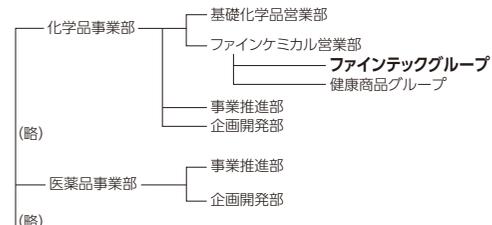
医薬品事業部とファインテックグループの統合

当社の医薬品事業部は、自社医薬原薬の研究開発および製造を行っております。また、化学品事業部ファインケミカル営業部ファインテックグループは、技術提案型受託合成事業として他社医薬原薬の製造および医薬中間体製造を行ってまいりました。

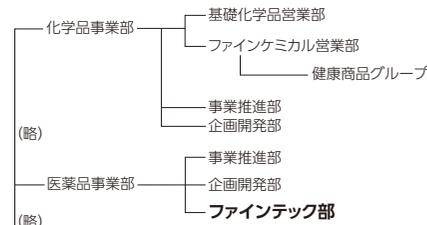
いずれも当社のコア技術である精密有機合成技術をベースとした事業展開であり、研究開発・品質保証体制、研究所・工場運営等において共通事項が多いため、経営資源を効率的に活用する観点から、このたびファインテックグループを医薬品事業部に統合し、医薬品事業部ファインテック部とする組織改訂を実施しました。

今後、創薬事業と受託事業を二本柱とする新たな医薬品事業を展開してまいります。

改訂前

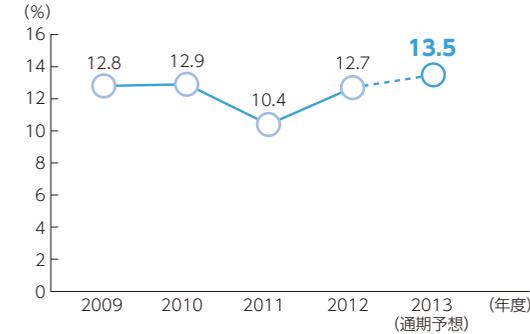


改訂後

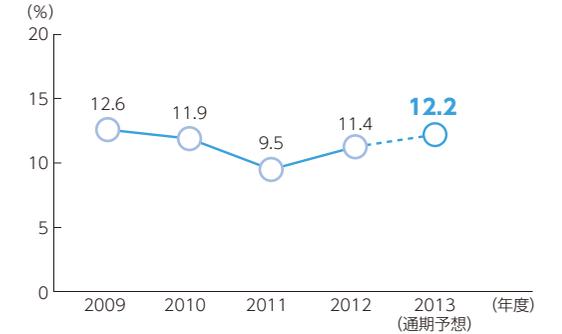


連結主要指標推移

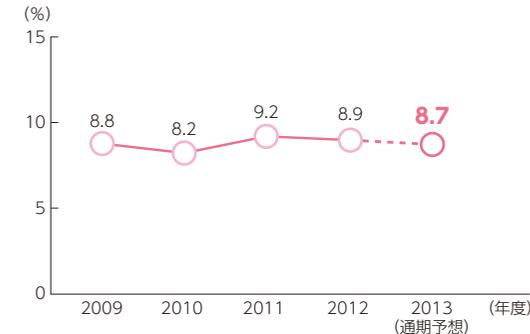
売上高営業利益率



ROE



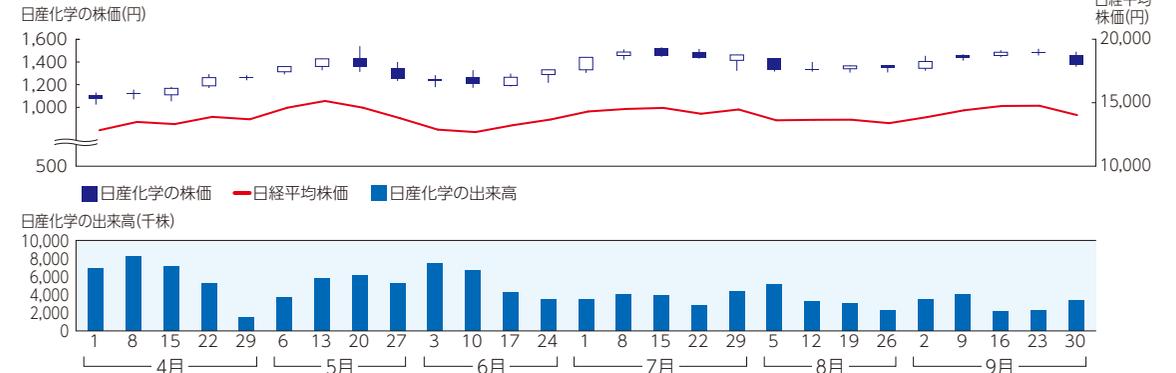
売上高研究開発費率



自己資本比率

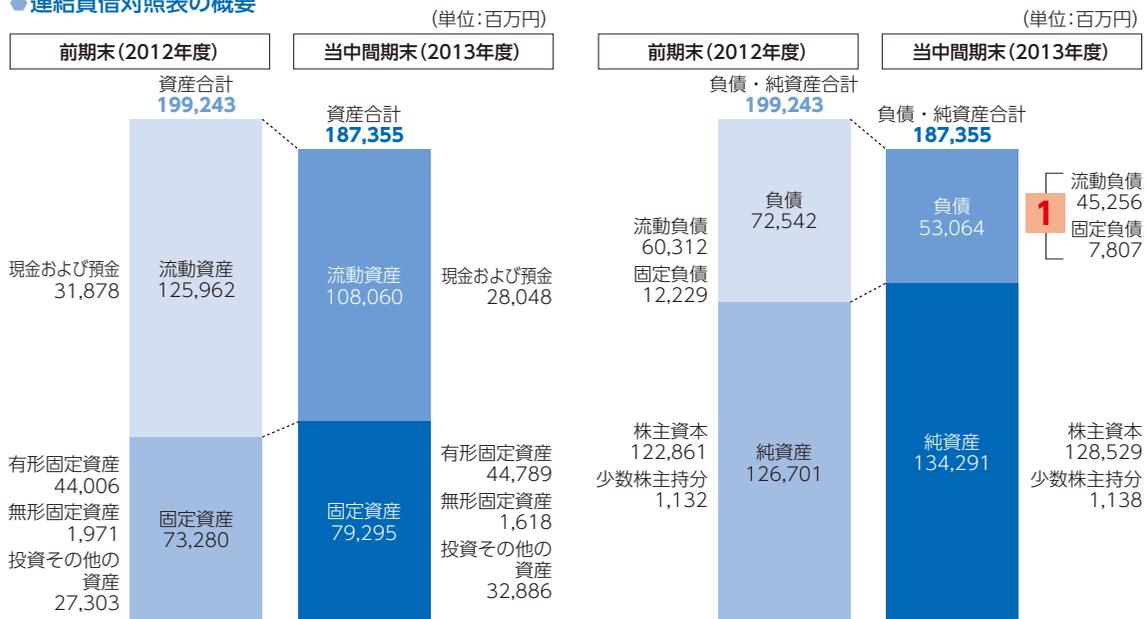


株価および出来高(2013年4月~2013年9月)

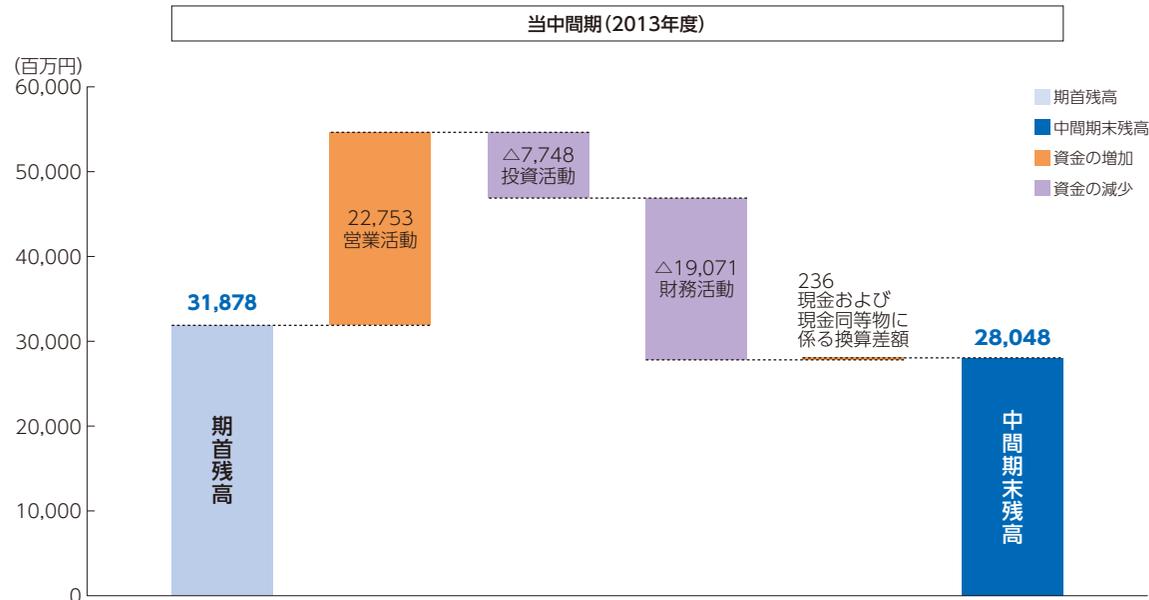


連結財務の状況

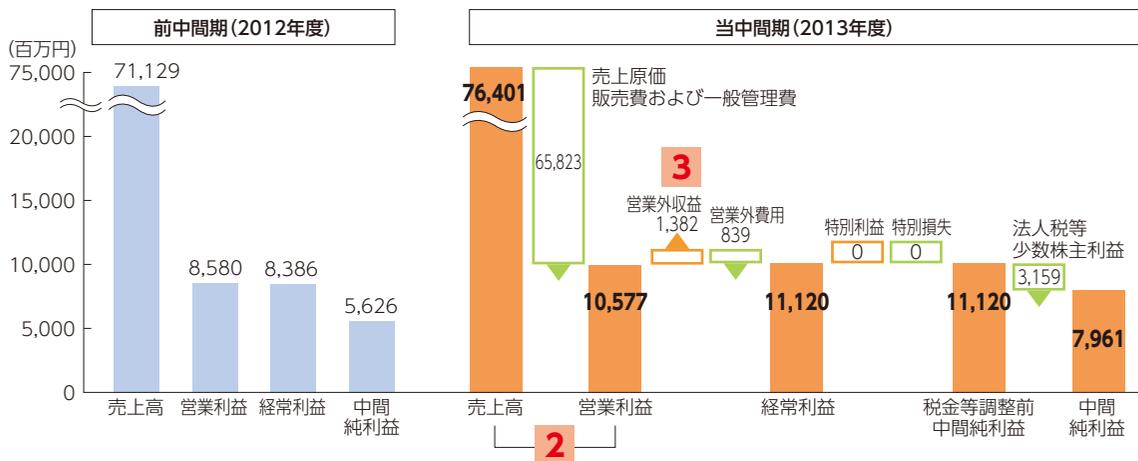
●連結貸借対照表の概要



●連結キャッシュ・フロー計算書の概要



●連結損益計算書の概要



POINT 1 短期借入金 / 長期借入金

負債のうち有利子負債残高は、前期末に比べて16,620百万円減少し、21,440百万円となっています。

POINT 2 売上高 / 営業利益

売上高は前期に比べて5,271百万円増加し、76,401百万円となっています。また、営業利益は、前期に比べて1,997百万円増加し、10,577百万円となっています。

POINT 3 営業外収益

営業外収益には、為替差益232百万円、持分法による投資利益384百万円などを計上しています。

